

<全体分析>

試験時間 80 分

解答形式

空欄補充・選択・記述・論述・計算

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

マーク形式の設問と記述形式の設問が混在している。

その他トピックス

本年も、頻出である個体群や生態系の分野からの出題がみられた。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	空欄補充 選択 論述 計算	細胞 細胞分裂 遺伝子	生物 基礎 ・ 生物	[5] ④ DNAの複製が阻害されて、S期に入れなくなるか、S期の途中の段階で停止するかで結果が変わるため、①と④のいずれも可だろう。	標準
II	空欄補充 選択	神経	生物	[5] 神経細胞eあるいは神経細胞fにおいて、短い時間差で興奮が生じると、時間的加重により神経細胞hで興奮が生じることに注意する。 [6] 各神経節細胞に対する興奮性の入力を+5、抑制性の入力を-1、入力のない場合を0とすると、各神経節細胞に与えられる刺激の強さは、aでは0、bでは-1、cでは4、dでは3、eでは3と表すことができる。	標準
III	空欄補充 選択 論述	光合成	生物	[4] 下線部(c)では、ATP合成に伴うH ⁺ の移動ではなく、電子の伝達に伴うH ⁺ の輸送が説明されていることに注意する。 [5] (イ) カルビンが行った実験では②の結果が得られたが、この実験からは②と③の判断はできない。	標準
IV	空欄補充 選択 記述 計算	個体群 種間関係	生物	[8] 植物の根に共生した菌根菌の菌糸が、小さい穴を通じて区画Aから区画Bに伸び、区画Bに加えられた ³² Pリン酸が菌根菌を介して植物に供給されると考えて、③を選択する。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

全分野から出題されるので、苦手な分野がないようにしておこう。基本的な知識をしっかりと覚え、重要語句の空欄補充などの演習を積み、取りこぼしがないようにすることが大切である。様々な分野での計算問題にも習熟しておこう。また、個体群や生態系の分野からの出題頻度が非常に高いので、重点的に学習しておこう。